

第28回 IRIDeS 金曜フォーラム

日時：平成27年6月26日(金)16時30分～18時35分

会場：東北大学災害科学国際研究所棟 1階 多目的ホール

テーマ：「被災地の復興はどこまで進んだか(2)」

1. 16:30-16:55 (発表+質疑応答 25分)

タイトル：「地域資源を活用した大規模災害時の住宅政策に関する考察」

話題提供者： **岩田 司** (地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野)

今回の東日本大震災では、阪神大震災から供給されなくなった木造仮設住宅の建設や、地域の住宅生産体制を活用した地域型復興住宅などが、脚光を浴びることとなった。ここでは、これまでの30年に及ぶ福島県三春町における地域住宅計画における活動と共にこれらの流れを概括し、これまでの住宅復興の成果とその持つ有効性に関して検証すると共に、今後の災害時における地域に根ざした復興住宅政策のあり方について考察する。

2. 16:55-17:20 (発表+質疑応答25分)

タイトル：「復興と地域住民組織—いわき市平豊間地区を事例に—」

話題提供者： **松本 行真** (リーディング大学院 グローバル安全学トップリーダー育成プログラム)

震災から5年目に突入したものの、津波被災地においてはハード(インフラ)/ソフト(コミュニティ)での復興は途上である。9割近くの家屋が流出したいわき市沿岸部(特に薄磯区)において数年間、住民の散住による弊害(情報共有など)が生じ、復興に向けた意思決定の阻害要因にもなっていた。本報告では、コミュニティ再構築の過程において再構築の鍵となる「意思決定」に焦点をあて、復興まちづくりに向けた「連携」の課題を抽出する。

3. 17:20-17:45 (発表+質疑応答25分)

タイトル：「健康は復興したか？」

話題提供者： **栗山 進一** (災害医学研究部門 災害公衆衛生学分野)

東日本大震災で健康を損なわれた方々は現在、健康復興を実現されているのでしょうか。さまざまな健康調査の結果、残念ながらメンタル面で課題を抱える方がいまだに被災地で多くみられていました。さらに小児ではアトピー性皮膚炎や気管支喘息などと診断される子どもの割合が被災の有無で2倍以上異なるとの報告もみられ出しました。震災の「教訓」は残さなければなりません。一方で、病気の増加など震災の「禍根」は残したくありません。これからますます健康復興が必要と思われれます。

4. 17:45-18:10 (発表+質疑応答25分)

タイトル：「学校・子ども視点の復興～石巻市東部沿岸部の小学校の事例から～」

話題提供者： **桜井 愛子** (情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野)

石巻市東部沿岸部の小学校での災害復興教育プログラムの実践から得られたデータや情報、観察から、地域を知る学習を通じて、地域への愛着をもちつづける将来のまちづくりの担い手を育てることが、「よりよい復興」につながる一歩であることが示されている。

5. 18:10-18:35 (発表+質疑応答25分)

タイトル：「復興の今～石巻・女川を例に～」

話題提供者： **平野 勝也** (情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野)

津波被災地の復興事業は、集中復興期間の最終年度を迎えて、新たな局面に入りつつある。具体的には、住まいの再建が概ね終了に向かい、低平地(移転元地)や、拠点的エリアのまちづくり、防潮堤工事の進捗、さらには、民間主導のソフト的なまちづくりなどが展開しつつある。石巻・女川などでの支援活動を通じて感じている、復興事業の「今」と、直面している様々な課題を、まちづくりの視点から防潮堤問題も交えて報告する。

司会： **村尾 修** (地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野)